

ぶらりわが街宮沢界限

(40) シリーズ連載の追記・現状・構想 - I - II -

◎アキシマクジラの化石発掘―「⑦多摩川― I アキシマクジラ発見」に記載

○化石流出の危機―



昭和36年(1961)8月20日発見から、8月28日～9月3日の一週間化石を掘り出し、復元作業の場所「成隣小学校」へ搬入が9月3日午後3時に終わったが、作業終了を待っていたかのように夕方から大雨となり、まもなく発掘現場は川底に沈んでしまった。もう少し前に雨が降つたら化石は流されていたかも、それほど際どいところだった。

○アキシマクジラの化石は今何処に?―

成隣小学校の空き教室での石膏(せっこう)で固めるなどの復元作業は一年後の37年8月23日完成。その後、同年12月14～16日一般公開を経て、非公開の国立科学博物館新宿分館(新宿区百人町)で研究用に保存されていました。

現在は、平成12年(2000)2月開園の「群馬県立自然史博物館」(群馬県富岡市上黒岩1674-1)

* (地球の誕生から生命の進化の歴史や県の豊かな自然を紹介して、ティラノサウルスの動く実物大型や全長15mのカマラサウルスの骨格標本、化石など迫力満点な触れる展示も多い)

国立科学博物館でアキシマクジラの調査研究に携(たずさ)わっていた長谷川氏(現、県立自然史博物館名誉館長)の尽力(じんりょく)で、非公開の別館に保存されています。ほぼ完全な形での化石としては世界で初めてで、形状や歯が無いところからひげクジラの仲間、コククジラに近い種類であるが、現世のものと異なることがわかっています。

現在の状況は、発見から55年を経過した化石を、専属研究員木村氏の指導のもと石膏の異物除去など、非常にもろいので慎重にクリーニング作業実施中で、北米やアジアで発見された類似種との比較など精密な学術調査をして、近年中に固有種として論文にまとめ「アキシマクジラ」と命名し世界に発表予定です。

* 研究員以外に化石を見学出来る最後の企画として、平成28年2月18日に文化財ボランティアガイド研修・市職員研修に参加し、化石に触れる事はできましたが、撮影した写真等の公開は厳禁通告でした。

○アキシマクジラの原型レプリカの展示構想―

市教育委員会は、つつじが丘南小(つつじが丘3-3-15)は、つつじが丘北小「現つつじが丘小」に平成28年4月1日統合に伴い廃校になり跡地に、市教育委員会が(仮称)「教育福祉総合センター」の整備・建設について、既存校舎は教育センター・男女共同・子育て支援など。新築建物は校庭に教育文化施設として、図書館・郷土資料室が計画されています。昭島の象徴「アキシマクジラ」の原物展示の要望は多いのですが、基本設計では、化石は非常にもろく重量もあり、また世界的学術価値などによって、原型レプリカを図書館・郷土資料室の正面出入口の吹き抜けに吊り展示し、2階からも観賞できる計画です。スケジュールは、27年～28年基本設計のワークショップや市民説明会などを経て実施設計し、29年度中に工事を開始、31年度中にオープン予定です。



○拝島駅「くじらと富士山」―

橋上駅開業記念として設置されたステンドグラス作品。平成19年(2007)年8月除幕。製作者はルイ・ノランセン氏。